

日本キリスト教会大阪北教会  
2017年5月14日「母の日」親子合同礼拝説教 牧師森田幸男

聖書 エフェソの信徒への手紙5章1節～2節

1節 あなたがたは神に愛されている子供ですから、神に倣う者となりなさい。2節 キリストがわたしたちを愛して、御自分を香りのよい供え物、つまり、いけにえとしてわたしたちのために神に献げてくださったように、あなたがたも愛によって歩みなさい。

説教『わたしにとって母は聖書であった』

◆大阪北教会では毎年5月の第2日曜日「母の日」には親子合同礼拝をする習わしがあります。只今、司会者のお祈りにもありましたように、この大人の礼拝の前に3階で行っている日曜学校の礼拝にはたくさんの子供が来て、いつもなら3階から子供の声が聞こえて手来る時間帯なのですが、今日は子供の声がしません。実は、今日は学校の行事や幼稚園の行事などで、いつも日曜学校に来ている子供達の出席は、今日はゼロです。ですから、今日は大分老けた子どもばかりですね。ここに私たちがいるというのは、わたしたちが皆子どもだということですね。それで今日は、春休みでフリッピングからおばあちゃんのところへ帰って来た村上正子さんが一番小さい子どもで、高校生で15歳ですね。それで今日ご出席の中でもご高齢の子供さんは、皆さん経験があると思いますが、実はわたしも両親の歳を越しました。しかし、実感としては、母を全然越えられないのですね。私の方がもう母よりも年上になったのですけれども、思い出せば、いつも母の子供なのですね、今でも。母は絶対に越えられない。

◆ところで、今日の説教題を「わたしにとって母は聖書であった」といたしました。ある本を読んでいまして、見つけた言葉です。皆さんの中に、「わたしにとって母は聖書であった」ということを、実感として言える方がおられましたら、手を上げてください。日本の場合はなかなかそうはいかないのですね。例えば「息子が、娘が、わたしにとって聖書であった」と言える方は、日本の場合にはあると思います。わたしの場合もそうでした。23年前に北教会に赴任した年のクリスマスに、母はこの北教会で息子でもある牧師から、洗礼を受けて、その翌年に召されたのでした。ですから、幾つになっても、母を越えられないのですが、私を通して母は信仰に導かれたのです。ですからその点では子どもたちにとって一番の親孝行かもしれ知れませんが。

◆それで「わたしにとって母は聖書であった」という言葉は、アメリカ第16代大統領・リンカーンの言葉でしたと言え、皆さんも納得されるかもしれませんが、実はこれはリンカーンの言葉ではなくて、ある日本人の言葉なのです。このように言った人は、「神谷美恵子」さんという人です。この人は岡山の長島に「長島愛生園」というハンセン氏病の国立療養所がありますが、そこで長く精神科医として働かれた人です。その神谷美恵子さんの言葉なのです。彼女が「わたしにとって母は聖書であった」と言っているのですけれども、それはお父さんもお母さんもクリスチャンだったので、そしてこの「神谷美恵子」さんもクリスチャンでしたというべきでしょうか。皆さんは、「クエーカー」とか「フレンド派」というグループ名を聞かれたことがあると

思います。その派なんです。そして神谷さんの母方のおじさんに無教会派の方がおられました。どちらも洗礼を行わないグループです。その神谷さんが「わたしにとって母は聖書であった」とこういう言葉を自分の幼い時の経験として書いておられます。自分の子供からこのように言ってもらえるお母さんは幸いな人だと思いますね。またそのように言える母親が与えられた子供もまた幸いだと思いますね。

◆今日はそのようなわけで、「母の日」に因んで、親子合同礼拝を捧げているわけです。「母の日」の由来については毎年お話ししていますが、<1905年5月9日、アメリカのフィラデルフィアに住む少女「アンナ・ジャービス」が母の死に遭遇したことで、生前に母を敬う機会を設けようと働きかけた事に由来します。やがてこの働きかけがアメリカ全土に広まり、1914年、当時のウイルソン大統領が、5月の第二日曜日を「母の日」と制定し、国民の祝日となったのです。日本でも宣教師を通して「母の日」が祝われたのは、100年近くなると言われています。アンナ・ジャービスはお母さんの記念会を教会で行い、お母さんの好きだったカーネーション供えたことがきっかけとなったのです。因みに、日本では、5月5日が「こどもの日」で「祝日法」によれば、その意義は「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」となっています。

◆今回、改めていろいろと調べていましたら「母の日」のきっかけを作ったアンナさんは、大分歳とってから亡くなるまで、「母の日」をなくそう運動をしたと言うのです。そのために全精力を費やし、全財産も費やして、「母の日祝日」撲滅運動にかけたと言われています。そのわけは、日本でも今そのようになっていますが、母の日がお母さんへの心からの感謝を表す日ではなくて、母の日が商業主義に利用されてしまっており、自分が願ったことと違い、その逆になってしまったとして、反対運動したということです。そんなことで、アンナさんという人は本当に純粋な人だと思いました。

◆ところで、皆さんも、トランプさんの大統領就任式の映像を御覧になったと思いますが、それを見ていて改めて「へーっと」思ったことがありました。大統領の就任式に宣誓をしますね。その時、司式する人がいます。司式者はアメリカ連邦の最高裁判所長官です。どの大統領も宣誓の言葉は決まっています。紙に書いたものを読むのではなくて、長官が1句ずつ言うわけです。「わたしはアメリカ合衆国の大統領として」「職務を忠実に実行し」「できる限り最善の努力をし」「合衆国憲法を維持し、」「保持し、」「護ることを誓います。」これを一句ずつ口真似するのです。これが大統領就任の時の宣誓の言葉です。その時に聖書に手を置くのが習わしです。トランプさんの場合、聖書は2冊で、1冊はリンカーンがお母さんからもらった聖書、もう1冊はトランプさんが子供のときにお母さんからもらった聖書。その2冊をご夫人が持っていて、その聖書の上にトランプさんが手を置いて、先ほどの宣誓をするのです。

◆私が、何を思ったかと言いますと、宣誓する時のランプさんが子供に見えたのです。トンプさんが宣誓しているとき。「わー、子どもに戻ってる」という感じだったのです。ところがその後のトランプさんは、大人に戻ってしまって、アメリカは先行き不透明と言うほどの混乱ぶりです。就任演説では、聖書も引用されています。詩篇133編1節です。「見よ、兄弟が共に座っている。なんとという恵み、なんとという喜び。」さらにそのあと、あのキング牧師がワシントン大行進の時に行った、私には夢がある」という演説をなぞらえたような言葉を述べています。「子どもたちは、黒人であっても白人であっても、そして他の人種であっても、またどんな境遇で生まれようとも、同じ夢を見ることができ、創造主から同じ命が吹き込まれていることを実感する時が必

ず来る。」神谷さんの場合は、お母さんが生きた聖書として自分の側にいてくれたのですね。ですから、これからの世界の平和のためには、トランプさんが演説に引用した聖書の言葉にしても、何にしてもそれを実行しなければダメですね。本当に日本が自立した国となり、世界の平和に真に貢献できる国になるためには、神谷さんにとって、お母さんがされたその役目を、日本のクリスチャンが、少数者と言えども、新しい日本を造るための、産みの苦しみをしないとイケないと思うのです。

◆「あなたがたは、神に愛されている子どもですから、神にならう者となりなさい。」子供達にプレゼントをする時に、こういうふうによく書きます。そして聖書はそのあとに、「キリストが私たちを愛して、御自分を香りのよい供え物、つまりいけにえとして私達のために神に献げて下さったように、あなたがたも愛によって歩みなさい。」とすすめるわけですがけれども、このようにわたしたちが生きることですね。そして死ぬことなのですね。どこの国でも子供を亡くすことは親にとっては本当に辛いことですね。子どもを泣かせる国も世界もダメですがけれども、母親を泣かせる国もだめですね。本当にこれは万国共通なのです。それが今、世界はガタガタになっているわけですね。そんなことで今日の聖書の言葉は、短いですがけれども、わたしたちはこれを生きる。そのようにして神様の御心が世界に成っていくのでないでしょうか。

◆今日皆さんに紹介した、神谷美恵子さんの言葉が記されていた本の次のページを見ると星野富弘さんの「ペンペン草」という詩と絵が載っていました。こんな詩です。

“神様がたった一度だけ この腕を動かして下さるとしたら 母の肩をたたかせてもらおう 風に揺れるペンペン草の実を見ていたら そんな日が 本当に来るような気がした” 星野さんは怪我をして、9年間も入院されたのですね。今、星野富弘さんは70歳ですが、身体は怪我した時のままです。でも星野さんのお母さんへの感謝の思いは通じていますね。

◆その様な事でありますので、今日の聖書の御言葉をわたしたちは本当に心に刻んで生きたいと思えます。神谷美恵子さんは、「わたしにとって母は聖書であった」と言われました。私はこの様に言いたいと思えます。「私にとっては宇田先生が聖書であった」と。もし先生との出会いがなかったら、わたしはどんな道を歩んでいたでしょうか。また聖書がよく分からなかったと思えます。先生とお会いして、話していると、いつの間にか、イエス様の前に、神様の前に、連れて行かれています。そんな出会いを与えて下さった神様の導きを、感謝しないではおられません。

◆お祈りいたします

神様、あなたはわたしたちに試練を与えられます。しかしその試練はわたしたちを引き下ろすためではなく、ほんとうにあなたの祝福の大きいなることに気づかせるためにこそ、あなたが試練によって、わたしたちに望んでいくくださることだと思えます。今改めてそのことを思い感謝いたします。また母があつて、父があつて、私の幸いな今がある事を思い、感謝いたします。すでに父母の召された者は多いのですけれども、あなたが御側近く召して、あなたの大きいなる祝福の許においてくださることをおぼえ、心から感謝いたします。どうかわたしたち、御心にかなう日々を歩ませてください。そして本当にこの危機迫る世界の平和の為に身を捧げ、仕える者とならしめて下さい。この祈り、イエス様の御名を通し御前にお捧げいたします。アーメン。